世代最強ＦＷ Ｊ１へ

心 新たに 2018年春

⑦完

海外視野に飛躍誓う

サッカー **安藤　瑞季**（長崎総合科学大付高→Ｃ大阪）

「小嶺先生が信じて使ってくれて、ここまで成長させてくれた」。安藤瑞季は心から感謝している。地元の大分で過ごした中学時代。無名だったが、漠然とプロに憧れていた。長崎総合科学大付高で夢に向かって努力を重ね「高校ナンバーワンストライカー」と呼ばれるまでに進化した。

フィジカルの強さとスピードで道をこじ開けるＦＷ。抜群の得点感覚を持ち、貪欲にゴールを狙う。根底にあるのが、ぶれない体幹とハングリー精神。小嶺忠敏監督の下でストイックに走り込み、トレーニングを重ねて培った。サッカー漬けの日々を過ごし、体重は入学時から10キロ近く増加。太ももは格段に大きくなった。

３年時は世代別日本代表として遠征する日が増えた。「そこで教わったことをチームに反映できるように考えていた」。きつい練習を乗り越え、寮生活で寝食を共にした仲間たち。時には「理想が高くなる分、やりづらさもあった」。ぶつかり合いながら、高め合い、全国高校総体で８強入り。冬の全国高校選手権は３試合連続ゴールで、優勝候補の青森山田も倒した。

実績を重ね、複数のプロクラブからオファーがあった。練習に参加した中で「ここでやりたい」と素直に思えたのが、Ｊ１・Ｃ大阪だった。昨季は２冠に輝き、今季も既に１冠。タレント軍団で結果を残せば「日本代表に近づける」。エネルギッシュな今、トップ級で勝負する道を選んだ。

１月中旬からチームに合流している。「高校とプロでは雲泥の差」。レベルの違いを肌で感じた。でも、「歯が立たないとか、この人無理だという人はいない」。シュートのタイミングは通用すると認識できた。一流選手とプレーする中、身のこなしやステップで、もっとうまくなる感触もつかめた。「一日も早くレギュラーに定着したい」と、うずうずしている。

語学の勉強も力を入れる。「いつかは多くの国の代表選手が集まる欧州へ移籍したい」。そのためのステップに、21歳で迎える２０２０年東京五輪日本代表（Ｕ―23）も視野に入れる。大きな目標へ。一歩一歩近づいていく。道のりは険しくても怖くはない。立ちはだかる壁の壊し方は、長崎で過ごした３年間で学んだ。

（中島崇雄）

「小嶺先生の下でやれて大きく成長できた」と語る安藤　＝長崎市、長崎総合科学大

あんどう・みずき　中学時代まで地元の大分県で過ごし、長崎総合科学大付高へ進学。２、３年時は全国高校選手権、３年時は全国高校総体の優秀選手に輝いた。Ｕ―17、18、19、20日本代表にも名を連ねた。好きな食べ物はオニオンスライス。175㌢、75キロ。

2018.3.8 長崎新聞